

5-2-2 短期大学教育改革 ICT 戦略会議

<事業計画>

短期大学生の社会人基礎力の強化、短期大学のプレゼンス向上を促進する事業として、短期大学生に多く見られる社会貢献への参加意識、自由な感性、スマートフォンなどによる情報活用と情報発信の対応力などの特性と教職員の専門知を統合して短期大学チームを作り、地域市民の生活向上、地域価値の掘り起こし、地域創生・活性化構想の提案など、有志の短期大学間による地域貢献活動の支援事業を具体化する構想の実現に向けて課題と対策を協議するため、国立・公立・私立の大学・短期大学を対象に「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」実施する。

<事業の実施状況>

「短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会」を継続設置して、「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」を実施した。以下に、委員会の活動状況について報告する。

短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会

平成30年5月22日、7月2日、7月27日、11月16日、平成31年1月13日、3月12日に平均5名が出席し、6回開催し、開催要項の策定、全体討議の運営、開催結果のとりまとめ及び次年度への対応について検討した。

(1) 開催要項の策定

平成30年6月に中央教育審議会大学分科会将来構想部会から中間まとめが提出され、秋には答申が提出されることを踏まえ、最初に文部科学省から「将来構想における短期大学の在り方」と題した報告をもとに認識を深めるとともに、専門職業人材の養成、教養的素養人材の養成、地域コミュニティ人材の養成を充実・強化するために、ICT活用を含む教育革新の試みとして、地域拠点としての短期大学教育の充実・強化策を考察することにし、以下の通り開催要項を策定した。

～地域拠点としての短期大学教育の充実・強化を考える～ 平成30年度短期大学教育改革ICT戦略会議開催要項

日 時：平成30年9月6日（木）13：00～16：30
場 所：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館）

【開催趣旨】

短期大学の将来構想が文部科学省中央教育審議会において検討が進められている。その中で、地域の産業を支える職業教育機能の充実強化、多様な進路の選択肢を充実させるファーストステージ機能の強化、社会人への再教育機能・生涯学習機能の強化が課題となっています。そこで、本会議では、短期大学教育の質的充実に如何に支援するかという観点から、専門職業人材の養成、教養的素養人材の養成、地域コミュニティ人材の養成を充実・強化するため、ICT活用を含む地域連携、大学間連携による教育革新の試みについて、地域拠点としての教育機能の質向上に向けた対策と課題を探究する機会にしたい。

【開会挨拶】 短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会 戸高 敏之 委員長

【講演】「将来構想における短期大学の今後の在り方」

文部科学省高等教育局高等教育企画課課長補佐 江戸 朋子 氏

文部科学省中央教育審議会将来構想部会で検討されている2040年頃の社会を見据えた教育の在り方の中で、短期大学の機能強化の観点としてとりあげられている、地域の産業を支える職業教育機能の充実強化、ファーストステージ

機能の強化、社会人への再教育機能・生涯学習機能の強化の方向性について説明いただく。

【事例紹介 1】「地域に根ざした短期大学教育の充実・強化と今後の展望～鹿児島女子短期大学の取組み」

鹿児島女子短期大学地域連携センター長 大重 康雄 氏

アクティブ・ラーニングに ICT を活用するなど地域連携で課題解決に取り組む教育活動、地域の生活・文化向上を目指す研究活動、公開・生涯講座による社会貢献活動を組み合わせて、地域活性化の担い手の育成につなげようとする短期大学機能強化の取組みと、地域で期待される社会人力の獲得を目指したキャリア教育（「鹿児島発社会人養成プログラム」）及び地域と連携した学生支援システムの取り組みを中心に、地元企業などの反応を踏まえた短期大学教育の改善充実・強化の展望と課題を紹介いただく。

【事例紹介 2】「地域社会と共生する短期大学教育の充実・強化と今後の展望～聖徳大学短期大学部取組み」

聖徳大学短期大学部教授総合文化学科長 蓑輪 裕子 氏

地域で活躍できる人材を目指して、短期大学の知的資源と学生の活力を地域貢献の核として、サービスラーニング型教育体系、課題解決型教育体系などの学びを通して地域貢献を経験し、実践力を高めていく地域と一体となった新カリキュラム導入の取組みを通じて、商品の開発などによる地場産業の活性化、プログラム策定・メディア戦略支援などによる商店街の活性化、学生ボランティア派遣などによる地域子育て力の向上、地域学の創設などによる市民意識の高揚に貢献している短期大学教育の改善充実・強化の展望と課題を紹介いただく。

<休憩>

【全体討議】「地域拠点としての短期大学教育の充実・強化を考える」

課題提起：「地域の発展に ICT で情報発信力を高めるにはどうすればよいか」

実践女子大学短期大学部 三田 薫 氏
鹿児島女子短期大学地域連携センター長 大重 康雄 氏
聖徳大学短期大学部聖教授総合文化学科長 蓑輪 裕子 氏

社会が AI などの技術革新で産業構造や生活などが大きく変化していくことが予想される中で、ICT を用いて社会の多様な意見・要望を収集・蓄積・分析・予測し、問題提起や解決案の発信など、インターネットと情報端末による Web 環境の構築力や情報の発信力が要請されることを受けて、地域の発展につながる情報発信力を短期大学教育の中でどのように育成し、地域の貢献活動に繋げられるかなどの戦略を探求する。

(2) 実施結果

参加者は 22 短期大学、3 大学から 38 名の参加があった。以下に全体討議で課題提起した「地域の発展に ICT で情報発信力を高めるにはどうすればよいか」について、確認できた主な点を報告する。

- ① 短期大学生の社会の役に立ちたいという崇高な気質、感性、情報発信力を地域活性化に繋げていく地域貢献活動が必要であり、学生の実践的なキャリア向上に効果が期待できることを確認した。
- ② 地域貢献活動のイメージは、例えば、高齢者の見守りとして、ネット上で Skype などを通してコミュニケーションを行い、その内容を電子ブックとして加工し、公開する提案について多くの賛同を得た。
- ③ 地域貢献活動に必要な基礎知識・技能の修得は、1 短期大学では対応できないこと

から、ネット上で短期大学間が教材を共有するプラットフォームが必要であるとし、有志の短期大学間でコンソーシアムを立ちあげることに多くの賛同を得た。

- ④ プラットフォームに掲載する教材は、教員の指導を経て学生が主体的にかかわること実践力の向上が期待できるとの提案が行われ、理解を共有した。
- ⑤ 課題としては、ICT 専門家、異世代間のコミュニケーションの専門家、個人情報保護の専門家、美術・経営の専門家などの人的リソースや情報セキュリティ基盤が必要であることと、有志の短期大学間による地域貢献活動の運営資金としては、社会に教育の重要性を訴えるため、クラウドファンディング方式を導入する提案が行われ、認識を共有した。
- ⑥ 2019 年度には専門職大学が立ち上がるなか、短期大学のプレゼンスを高める新たな対応の一つとして、課題提起を参考に検討を重ね、短期大学生など若者による ICT を用いた情報発信で地域貢献の支援活動が実現できるよう具体化構想を計画することにした。なお、開催結果の詳細は、平成 30 年度事業報告の附属明細書【2-9】を参照されたい。

